

## 5 学習指導要領実施上の教育課程の研究 ～第4期教育振興基本計画を踏まえて～

千葉県立柏中央高等学校長 山崎 寛雄

### I はじめに

令和5年に閣議決定された第4期教育振興基本計画では「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」という二つの基本理念を掲げ教育の新たな方向性が示されている。令和7年度教育課程研究委員会では、こうした方向性を踏まえ、普通科高等学校における教育課程の実態と課題を明らかにするため、以下の三つの調査事項を柱に調査研究を実施した。

本調査では、全国214校の校長先生にご協力いただき、貴重なご意見と実践事例をご提供いただいた。心より感謝を申し上げます。

本報告は、調査結果の分析を通じて、教育課程の改善に向けた具体的な示唆を提示するとともに、今後の政策的・実践的な議論の一助となることを目指している。

- (1) 研究主題 学習指導要領実施上の教育課程の研究～第4期教育振興基本計画を踏まえて～
- (2) 調査事項 ①各教科における探究活動の取組と課題  
②アントレプレナーシップ（起業家精神）を育む学びに関する取組と課題  
③遠隔授業を活用した学びに関する取組と課題
- (3) 調査方法 Formsによるアンケート調査
- (4) 調査対象 全国の普通科をもつ高等学校（各県3～9校）
- (5) 調査期間 令和7年6月中旬から令和7年7月下旬まで
- (6) 全回答学校数 214校

### II アンケート調査結果と考察

#### 1 学校に関する調査（回答校の状況）

##### 問1

- (1) 設置者 都道府県207校(96.7%) 市町村4校(1.9%)  
学校法人等3校(1.4%) その他0(0.0%)校

##### (2) 課程

ア 全日制普通科のみ	140	65.4%
イ 定時制普通科のみ	1	0.5%
ウ 通信制普通科のみ	0	0%
エ 全日制普通科と定時制普通科併設	16	7.5%
オ 全日制普通科と定時制普通科と通信制普通科併設	2	0.9%
カ 全日制普通科と専門学科または総合学科併設	39	18.2%
キ 定時制普通科と専門学科または総合学科併設	2	0.9%
ク その他	14	6.5%
合計	214	100.0%

#### 問2 本年度の最終学年(年次)での、大学・短大を合わせた進学希望率

ア 90%以上	76	35.5%
イ 90%未満～70%以上	37	17.3%
ウ 70%未満～50%以上	30	14.0%
エ 50%未満～30%以上	42	19.6%
オ 30%未満	29	13.6%
合計	214	100.0%

#### 2 先進的あるいは特色ある教育課程の実施状況について

##### 問3 貴校での「各教科における探究活動」の取組と課題について

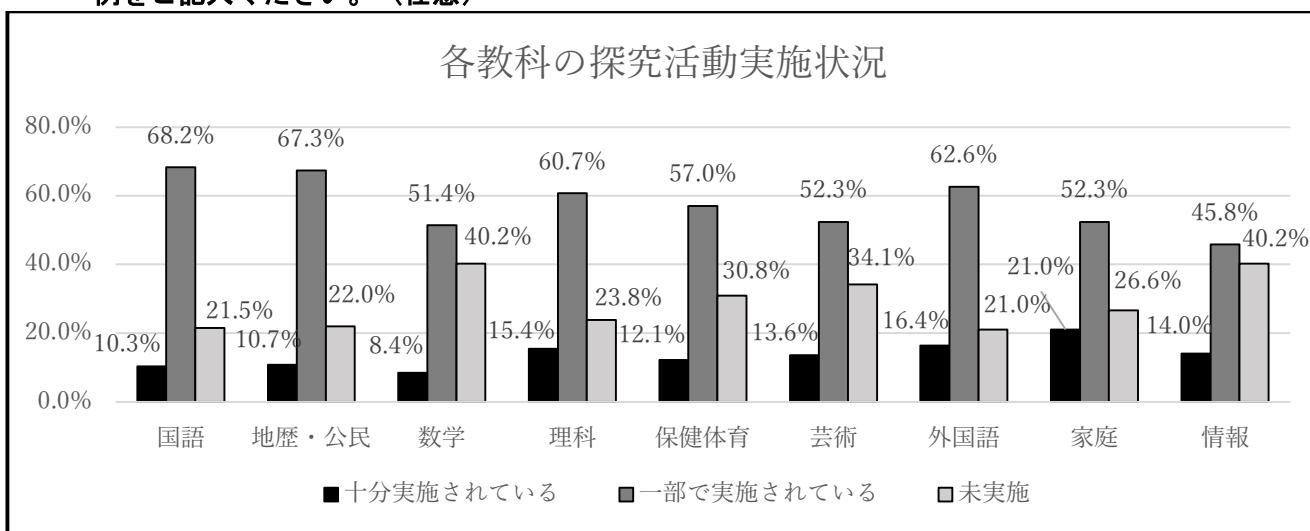
(1) 探究活動の全体方針はありますか？

質問項目	回答数	回答数/全回答数
ア 明文化された方針がある	85	39.7%
イ 口頭等で共通理解はある	50	23.4%
ウ 特にない	79	36.9%
合計	214	100.0%

(2) 上のア又はイで特徴的な取組内容があれば具体的に記述してください。記述の最初に、選んだ項目を表すカタカナをお書きください。(自由記述) 自由記述を以下にまとめる。

- ア 「明文化された方針がある」(組織的に進められている)と回答した学校の取組例
- ・ 学校教育目標に基づくスローガンやプロジェクトの実践(例:「自分を、ひらけ」プロジェクトなど)
  - ・ 地域連携を強く意識し、自治体や企業と包括連携協定を締結し共同活動を推進
  - ・ SSH(スーパーサイエンスハイスクール)やWWL(ワールドワイドラーニング)指定校として、教科横断的な探究や課題研究を体系的に実施
  - ・ 探究グランドデザインや年間計画の明文化、教職員の研修や探究学習部などの分掌の設置
  - ・ 学年別に体系的にキャリア教育(例:インターンシップ、デュアルシステム実習、みらいセミナー)
  - ・ 地域課題への継続的な取組(例:リボーンプロジェクト、KHScompany project)
  - ・ 学校設定科目(例:課題研究、松浦学)や探究の時間の設定と運用
  - ・ 教科横断型評価マップの作成、論理コミュニケーション力の育成など指導法の整備
  - ・ 地元関係機関との支援体制が整っている
  - ・ 地域社会貢献を掲げた教育目標の明示
- イ 「口頭等で共通理解はある」と回答した学校の取組(生徒主体や地域・外部との連携の探究活動や柔軟・実践的な取組)
- ・ 生徒が主体的に進路や興味に結びつけて探究活動を行う
  - ・ 多様な意見に触れ、考えを広げる探究活動の推進
  - ・ 認知行動療法の考え方を取り入れた教育活動やペア・グループワークの積極的導入
  - ・ 課題研究のテーマ設定に大学プログラムを活用、地元企業や自治体と連携した調査や提言
  - ・ フィールドワークや海外発表など、多様な学びの場の提供
  - ・ 地域の課題や将来について探究し提案(例:地元御前崎市、唐津市との連携)
  - ・ 校内組織(探究活動推進委員会など)で協議し周知徹底
  - ・ 各教科の取組を促進し、柔軟な教科連携を図る動き
  - ・ 地域の自然・歴史・産業・行政などを教育資源として活用

(3) 以下の教科において、「生徒が自ら問いを立て、情報を集め、考察・表現する」ような探究活動はどの程度実施されていますか？ ※「該当する活動がある場合」は、併せて具体的な実施例をご記入ください。(任意)



## 自校での実施例（自由記述）

### 【国語】

- 文学作品の多面的読解と創作
  - ・ 小説『羅生門』などのオープンエンドな作品については、登場人物それぞれの視点を踏まえて「その後」の物語を創作させる活動を行っている。
  - ・ 『舞姫』では、主人公と相手人物それぞれの視点から物語を読み解き、時代背景や社会的立場の違いがもたらす解釈の違いを考察させている。
  - ・ 古典作品においては、人物視点のみならず、時代背景や文化・慣習なども参照させ、多角的な読みを促している。
- 比較・対比の読解活動
  - ・ 同一筆者による複数作品（例：同じ歌い手の複数の歌詞、同一作家の現代文作品など）や、翻案作品と原典を比較しながら、筆者の価値観や表現の特徴を読み取らせる授業を実施。
  - ・ 評論文では、対比構造を意識させ、自分の言葉で要約・再構成した上で、身近な具体例に即して考察を深めている。
- 探究・表現活動
  - ・ 古典探究や文学探究の時間において、生徒が自ら問いを立て、複数回にわたる調査や施設見学などを通して情報収集し、レポートやプレゼンテーションとして発表する活動を重ねている。
  - ・ 単元末には、生徒が自らテーマを設定し、評論的な文章や創作、ディベート・スライド発表などを通して、学びの成果を可視化している。
- 協働的な学びとメディア活用
  - ・ マイクロディベートやグループ討議、ジグソー法など、協働的な学びの手法を取り入れ、生徒同士の学び合いを促進している。
  - ・ 新聞記事や SNS 形式での表現活動、生成 AI の活用による古典作品の再創作など、現代的なメディアやツールも効果的に取り入れている。
- 地域連携・総合的な探究活動との融合
  - ・ 地域の文化や偉人に関する探究活動（例：「相馬御風かるた」制作）や、地域課題解決型の調査学習と国語科の活動とを連携させることで、実社会とつながる言語活動を実現している。

### 【地理歴史・公民】

- SDGs・地域課題・防災などの「現代的課題」探究
  - ・ 地域課題の調査（観光、伝統文化、宗教、防災、子ども食堂など）
  - ・ 地理総合：「ペルシャ絨毯」など地理的背景と社会文化の結びつき
  - ・ 地理総合：ハザードマップと避難経路の妥当性検証
  - ・ 地理×公民：「伝統文化と宗教の関わり in 庄内」「地域を楽しくするプロジェクト」
  - ・ WebGIS・RESAS 等を活用した地理探究（避難地図、人口動態分析）
  - ・ 地元の地形図や GIS を活用した防災探究
  - ・ 長期休業中に地域課題を調査させる課題
  - ・ 地域のインフラについて考える討論
  - ・ 地域の文化調査、地元史跡調査、地元文化の発信
  - ・ 子ども食堂と連携したボランティア・募金活動
  - ・ 海外事例と比較して地域課題の解決策を検討
  - ・ 公共：役所と連携し、地域課題に取り組む授業
  - ・ 公共：模擬選挙・模擬投票
  - ・ 公共：私の支持政党を見つけるソフトの活用
  - ・ 地域活性化ゼミ、大学連携、現地研修
- 歴史的出来事の仮説検証・多角的考察
  - ・ 「8月15日は本当に終戦日か」の検証
  - ・ アメリカ独立宣言に対するヨーロッパの反応検証
  - ・ 弥生時代の最新研究や学説に基づく問い立て
  - ・ 日本人とは何かの考察
  - ・ 江戸期の藍産業の衰退理由の考察（徳島）
  - ・ 第一次・第二次世界大戦の原因の探究
  - ・ イスラエル・パレスチナ問題の歴史的視点からの解決案考察
  - ・ 奈良～平安時代の変化を通観的に捉え、仮説を立てる

- ・ 模擬裁判、模擬国連での歴史・社会的背景の考察
- ・ 史実に関する仮説検証、文献調査、プレゼン
- ・ 推し戦国武将の人生史、自分のルーツ探究（家紋、苗字など）
- ・ 江戸時代の人々の生活に関する探究授業
- 自分で問いを立て、仮説検証する探究活動
  - ・ 歴史総合・日本史探究：大単元の初めに問いを設定し、単元後に検証
  - ・ 地理・世界史・公民：生徒自ら問いを立て調査・発表
  - ・ 学際探究：青森県の統計データから4分野の政策提案（スライド）
  - ・ 単元を通して問いを教員が設定、生徒が調査
  - ・ 振り返り時に生徒が問いを作成
  - ・ データベース化された「思考力を深める問い」を授業改善に活用
  - ・ 哲学対話を通して「自ら問いを立てる」授業（倫理・公共）
  - ・ 「時事問題」や新聞記事などを用いた問い立てと考察
- 発表・対話・協働型の学び（ジグソー法・スライド発表など）
  - ・ ジグソー法の活用（歴史総合・地理総合・探究系科目など）
  - ・ 世界史探究：文化史テーマの調査・発表
  - ・ 日本史・世界史の合同授業でテーマ別考察
  - ・ PPT・スライドを用いた調査結果の発表・共有・再考察
  - ・ 歴史的な出来事の仮説や考察を班で共有
  - ・ 哲学対話、模擬裁判、模擬選挙など参加型授業
  - ・ 探究テーマの個人発表・ポスターセッション的発表形式
- 選択科目や特別講座での探究活動
  - ・ 学校設定科目「調べる地歴」「調べる公民」
  - ・ 第三学年選択科目で大学と連携
  - ・ 地域探究レポート（夏季休業課題含む）
  - ・ 地元文化調査や地域史研究（博物館等と連携）

## 【数学】

- 身近な事象の数理的探究・統計処理
  - ・ 年末ジャンボ宝くじ、ガチャガチャ、ジャンケン、ゲームなどを題材に確率や統計を活用
  - ・ 空のペットボトルを投げ入れる活動で分散・標準偏差を学習
  - ・ 校舎・木の高さを三角比で測量
  - ・ ノギスで円柱の直径を測定し、 $\pi \approx 3.14$ の実証
  - ・ 地震のマグニチュード計算×起震車体験（地学との連携）
  - ・ テーマパークの混雑度を資料から分析し、最適な訪問日を検討
  - ・ 建設現場の見学を通じた応用的数理の考察
- 統計データの収集・分析・相関関係の考察
  - ・ 校内アンケートの結果を相関係数で分析
  - ・ 松浦市のデータを数値化し、相関関係と背景を説明
  - ・ 興味あるデータの収集→相関分析→発表（例：天気と売上、SNS利用時間と成績など）
  - ・ 「データの分析」単元を活かし、表計算ソフトを活用した分析
- 確率・仮説の立案と検証
  - ・ 確率的事象（くじ・ゲーム・限定ジャンケンなど）について仮説を立て、シミュレーション・実験で検証
  - ・ 限定じゃんけん、ヒット&ブローなどを利用し、論理的思考と確率の理解を深める
  - ・ 条件付き確率のPCシミュレーション
  - ・ 「じゃんけんを早く終わらせたい！」など、実生活の問題から課題設定
- 数理モデル化・関数の応用
  - ・ 身近な現象の数理的モデル化（例：混雑予測、身長と座高の関係など）
  - ・ 関数の最大・最小、関数グラフの応用
  - ・ 無理数の折り紙による視覚的理解（ $\sqrt{2}$ 、 $\sqrt{3}$ 、 $\sqrt{5}$ など）
  - ・ 数列的な規則性を考察（例：「17段目の秘密」問題）
- 生徒主体の課題研究・数学ゼミ
  - ・ 数学ゼミ：発展問題・教育・ゲーム理論などの研究（例：「じゃんけんを早く終わらせたい！」）

- ・ 学校設定科目「数学探究」(1単位・選択)
  - ・ SSH指定校としての探究活動(SS課題探究、理数探究基礎)
  - ・ 数学的なテーマを自由に設定し、検証・考察を行う課題研究
  - ・ 教員が条件を与え、生徒が作問と解答例の作成を実施
- 授業での対話・協働・探究的学びの工夫
- ・ 生徒間の話し合いを重視(隣席との対話・意図の読み取り)
  - ・ 「正答」より「どうしてこうなるか」を説明させる活動
  - ・ 生徒同士の教え合いを通じた理解の深化
  - ・ 発展問題を教員が解説せず、生徒同士で解決
  - ・ 思考を深める問いをデータベース化し教員で共有

#### 【理科】

- 自由実験計画と結果の考察
- ・ 実験前に仮説を設定し、結果に基づいて考察(理数探究基礎など)
  - ・ 生徒自身による実験計画の立案・実施
  - ・ 実験後の時間を確保し、結果のまとめと発表
  - ・ 結果の考察をレポート化・スライド発表・ポスター発表など多様な形式で実施
  - ・ ICT(アプリ・表計算・スライド)を活用して考察・まとめ

具体的な例：

- ・ 金属のイオン化傾向の順番についての考察
  - ・ 眼鏡反応での手鏡づくり
  - ・ 化学アプリ「ケミ探」の活用
  - ・ 片目で見たとときの視野欠損に関する探究
- 身の回りの自然現象の探究
- ・ 校内・地域での観察、実験、自然との対話からテーマを導出
  - ・ 生物多様性・植物分布・菌類・昆虫などの調査
  - ・ 自由研究やテーマ設定型の探究活動として定着

具体的な例：

- ・ 校内イシクラゲの生息マップ作成
  - ・ ダンゴムシの交替性転向反応の装置設計・実験
  - ・ 地質時代の研究、桜の病原菌抑制
  - ・ 河川のCOD測定→地域の魅力発信
- 課題研究・科学ゼミ(化学・生物・地学など)
- ・ 2年次に小グループでの研究が多数(SSH・普通科問わず)
  - ・ 生徒がテーマを設定し、仮説→実験→考察→発表の流れを自立的に実施
  - ・ 外部機関・大学との連携により探究の質を高める

具体的な例：

- ・ 「廃棄されるシルクから糊を作る」(化学ゼミ)
  - ・ OISTと連携した昆虫調査
  - ・ 自然環境科のフィールドワーク・課題研究
  - ・ ソーラークッカーでのエネルギー探究(SDGsテーマ)
- 観察・フィールドワークによる地域探究
- ・ 地域の自然や災害リスク、生物環境などを対象に課題探究
  - ・ 自宅周辺・進路地域の災害予測と対策を調査
  - ・ 地域固有の自然・産業との連携あり(理科×総探)

具体的な例：

- ・ 松浦市の自然景観をフィールドワークで観察
  - ・ 地震・津波の科学的な理解と地域防災への応用
  - ・ 外来生物との共存に関する考察
  - ・ 地域の気象・植生・希少生物に関するグループ探究
- 科学的視点の育成を重視した授業運営
- ・ 仮説・検証・考察の流れを重視(各科目共通)
  - ・ ディベート・ジグソー法・相互評価など多様な手法で理解を深める
  - ・ 生徒の「問い」を起点に据えた活動(自由研究・スライド提出など)

具体的な例：

- ・ 夏休み課題で問いを立て、情報収集・スライド作成・提出
  - ・ ディベート活動の導入による科学的思考の深化
  - ・ 実験後の感想文作成によるメタ認知の育成
  - ・ 「思考力を深める問い」をDB化して教員間で共有
- 選択科目・学校設定科目における探究活動
- ・ 「理科探究」「化学探究」「プラクティカル・サイエンス」など学校独自の科目で実施
  - ・ 教科横断的に総探×理科×地域×SDGsをつなぐ設計

具体的な例：

- ・ 3年次：理科探究（1単位・選択）
- ・ プラクティカル・サイエンスでの教科横断的探究
- ・ 総探と理科の連携授業の中でSDGsテーマ探究

#### 【保健体育】

- 授業づくり・模擬授業・自己指導
- ・ 生徒が模擬授業を設計・実施・振り返り
  - ・ 指導案の作成や新たなスポーツの創作
  - ・ ダンス・団体競技における活動計画立案→実践→改善

具体的な例：

- ・ スポーツ探究：自作のスポーツルールでの授業実践
  - ・ 「自ら考えたスポーツを実践」し、仲間の反応も観察
  - ・ 自分たちで創作したダンスを発表・評価
- 運動の分析・トレーニングプログラムの立案
- ・ 動画・タブレット活用による動作分析
  - ・ 運動の効果分析（個人・グループ）
  - ・ 自分やチームの課題に合わせてトレーニングを設計・評価

具体的な例：

- ・ バドミントンやダンス：撮影→動きのズレ分析→改善
  - ・ スポーツテストの結果から運動メニューを作成・実施
  - ・ トレーニングの前後で効果を測定し、報告書作成
- 健康課題の探究・保健領域での課題研究
- ・ 保健の授業における調査・考察・ポスター作成・発表
  - ・ 身近な健康・医療・福祉・安全問題への気づきと課題設定

具体的な例：

- ・ テーマ例「健康寿命と運動の関係」「禁煙啓発」「薬物乱用防止」
  - ・ 飲酒運転の厳罰化に関する事例調査
  - ・ 保健：テーマ設定→文献調査→プレゼン発表
- スポーツ・健康に関する探究的授業
- ・ 「スポーツの歴史・ルール・経済・社会的意義」など広範なテーマでの学び
  - ・ スポーツを切り口に探究的な学びと教科横断

具体的な例：

- ・ 「スポーツ産業と経済効果」「オリンピックに関する探究」
  - ・ 専攻競技の戦術・ルール・フォーム等を比較研究
  - ・ 新体力テストから運動処方・体力向上策を考察
- ダンス・表現領域での創造的活動
- ・ テーマ設定と表現方法の工夫
  - ・ 創作ダンスを通じて伝達力・協調性・創造性を育成

具体的な例：

- ・ グループでテーマに基づいたダンス振付を考え発表
  - ・ 動画でプロの動きを視聴→自分の動きと比較→修正
  - ・ 男女混成で協力し合い創作するダンス单元
- 社会との接続・地域・他機関との連携
- ・ 高齢者施設・自治体（防災課）・中学校との協働
  - ・ 実社会を意識した体験学習・発信活動

具体的な例：

- ・ 高齢者向け体操を開発→音楽に合わせて指導
  - ・ 松浦市防災課と連携して災害時の行動を学ぶ
  - ・ 中学校とモルック大会を企画・実施
- 総合型探究・選択科目での取組
- ・ 3年次選択「スポーツ探究」「スポーツ総合演習」などで探究活動を体系的に実施
  - ・ 探究→発表→振り返りをカリキュラム内で確保

具体的な例：

- ・ PPTで「自分の競技」や「好きなスポーツ」などを発表
- ・ 「スポーツ総合演習」：スポーツの成り立ちから経済まで幅広く研究

## 【芸術】

- 創作意図の言語化と発表
- ・ 生徒が自らの作品（美術、音楽、書道など）について、創作意図や表現の工夫を言語化し、プレゼンテーションや発表を行う
  - ・ 作品完成後の振り返りシートやレポートを作成し、自身の考えを整理する
  - ・ 他者の作品について感想や評価の根拠を明確にし、相互批評を実施
- 表現技法の比較研究
- ・ さまざまな技法や表現方法を比較し、その効果や特徴を考察
  - ・ 歴史的背景や時代による変遷を調べ、表現の変化や文化的意義を理解
  - ・ 書道では篆刻や書体、筆・墨・硯・紙の役割や効果をグループで調査し、発表
  - ・ 音楽では指導者と生徒の演奏技法の違いを考察し、楽譜の歴史的変遷をたどる
- 創作・演奏活動
- ・ 音楽ではグループで独創的な演奏を企画し、意図を言語化して発表（例えば、「メリーさんのひつじ」の変奏曲作成など）
  - ・ 美術では日常生活や学校生活を豊かにするデザインアイデアの提案や、作品制作過程のスケッチと構想ワークを実施
  - ・ 書道においては短歌の創作と最適な構成を考察し、廊下などに掲示して共有
  - ・ 共同制作や展覧会出展、コンサート企画・運営、地域課題解決のための音楽創作など
- 鑑賞と調査研究
- ・ 鑑賞した作品の背景や時代背景、制作意図について調べ、まとめて発表
  - ・ オペラや名歌手の演奏鑑賞を通じて、発声法や表現技法を考察
  - ・ 芸術ゼミや保育音楽など選択授業で、テーマを設定して深く研究する取組
- ICTの活用
- ・ パワーポイントや動画などを活用した作品の調査や発表
  - ・ 作曲アプリを利用し、国語・英語と連携した作詞・作曲の教科横断的活動
- 創作過程の探究的学習
- ・ 制作過程での工夫や技法の選択を探究し、構想や表現に反映
  - ・ 書道では楷書・行書・仮名の特徴や変化について考察し、作品を創作
  - ・ 短歌や俳句の創作、主題設定と調査を通じて思考力を深める
- 社会的・地域的連携と発信
- ・ 文化祭での作品展示や掛川光のオブジェ展での受賞などの発表機会を活用
  - ・ 地域課題解決のための音楽制作や、いじめ防止委員会のテーマ曲作成など、社会的なテーマに結びつけた創作活動
  - ・ 自校紹介のCM制作などのメディア表現

## 【外国語】

- ディベート活動の活用
- ・ 与えられた社会的・時事的テーマに基づき、英語でのディベートを実施
  - ・ 校内ディベート大会や県交流大会への参加を通じて英語力と論理的思考力を高める
  - ・ 模擬国連や国際交流におけるディスカッション活動
- 英語によるプレゼンテーション
- ・ グループまたは個人で調査したテーマについてスライドを作成し、英語で発表
  - ・ 修学旅行先や地域紹介、自分の「押し」など身近なテーマから社会・国際問題まで幅広く扱う
  - ・ 校内発表会、海外姉妹校とのオンライン交流、学校設定科目「Practical English」等の実践

- ・ 各学年の授で定期的に行い、CANDO リストに準じたレベル設定
- 調査レポートや英語ライティング
  - ・ 調査結果を英文レポートやアブストラクトにまとめる
  - ・ 文化や国民性、リーダーシップ、平和学習など多様なテーマで探究論文を作成
  - ・ エッセイライティングやテーマ別自由英作文の作成
- テーマ別ディスカッション・スピーチ
  - ・ 教科書や社会問題に関連したテーマを設定し、ディスカッションやスピーチを英語で実施
  - ・ 日常生活や地域に関する話題から世界の貧困、ストレス軽減などのテーマまで多岐に渡る
  - ・ 意見の交換や議論を通じてコミュニケーション能力を向上させる
- 校外連携・国際交流
  - ・ 市や地域団体との協力による外国人への地域紹介活動
  - ・ 姉妹校とのオンライン交流や訪問での英語プレゼンテーション
  - ・ 小学生向けの紙芝居制作と発表など多世代交流の実践
- 創作的英語活動
  - ・ コメディ・SF・ミステリー等のジャンル別に物語を英語で作成
  - ・ 物語のリメイクや続きの執筆、メッセージ再構築
  - ・ 英字企業ロゴやブランドロゴの研究と発表
- 発表・パフォーマンステスト
  - ・ 暗唱コンテストやレクチャーを通じた表現力の強化
  - ・ ポスター作成を含む視覚情報活用のプレゼンテーション
  - ・ 单元ごとにプレゼンテーションやライティングの評価を実施
- 授業改善と教員間共有
  - ・ 「思考力を深める問い」のデータベース化による授業改善
  - ・ 各教員による授業事例の共有と研修への活用

## 【家庭】

家庭科における「ホームプロジェクト」及び課題解決型学習の取組

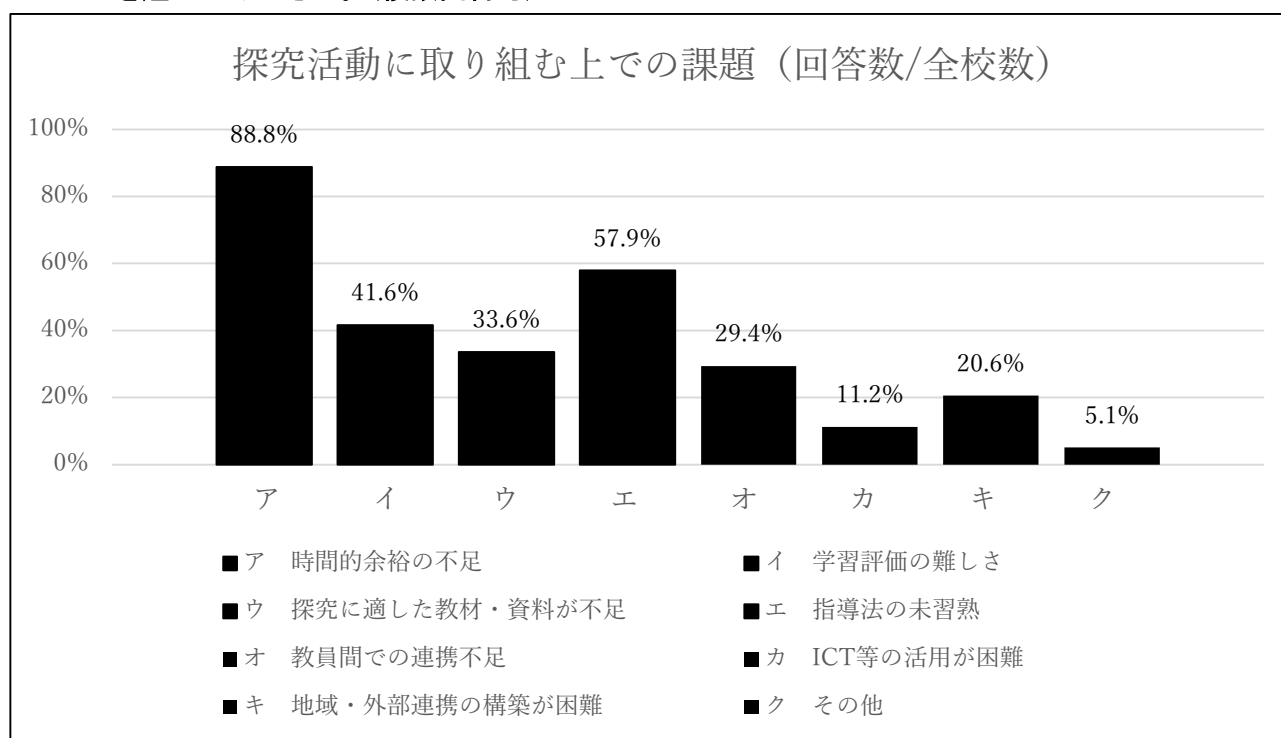
- ホームプロジェクトの概要
  - ・ 生徒が各自または班で家庭生活や身の回りの課題を設定し、その解決策を計画・実践
  - ・ 結果をスライドやレポートにまとめ、学期内に発表
  - ・ 夏季休業中の課題として取り組むケースも多い
- 具体的な活動内容
  - 生活課題の探究と解決
    - ・ 消費行動の調査・分析と商品選択の意思決定
    - ・ 栄養バランスの分析を含む献立作成と改善
    - ・ 食文化や地域特産品（例：干し芋）の調査・研究・体験・発表
    - ・ 家庭内の社会課題（高齢化、育児、家計管理等）に関する探究
    - ・ 生活習慣改善（服装の気候適応、食生活見直しなど）
  - 調理実習との連携
    - ・ 「青高自炊塾」などクラブ活動での定期的な調理実習と連動
    - ・ 探究活動の成果を調理実習に生かす
    - ・ 地元野菜を使ったオリジナルレシピの考案と実践
  - 地域・社会連携
    - ・ 地域の特産品研究や地元イベントでの発表
    - ・ 地域老人会や保育施設との協力による調査研究・実習
    - ・ 環境に配慮した消費（エシカル消費）の探究
  - 課題設定と発表
    - ・ 問題発見から解決までの PBL 形式
    - ・ Google スライドを用いたプレゼンテーション
    - ・ グループ討議や意見発表を重視
- その他の取組
  - ・ 保育基礎授業での年中行事調査や子どもの食事課題探究
  - ・ 高大連携講座「幼児教育講座」の実施
  - ・ 家庭科と英語科の連携授業（ALT の活用による英語発表）

- 生活課題に関わる安全ルール作成や模擬引っ越し、資産運用シミュレーションなど実践的学習
- 学校設定科目「家庭探究」での地域課題研究
- 成果の共有と継続
  - 先輩のホームプロジェクト成果をライブラリー化し後輩の参考に
  - 発表やレポートの共有による情報交換と学習の深化
  - 「思考力を深める問い」の教員間共有による授業改善

【情報】

- 課題探究の内容とテーマ例
  - ネットワークの光と影、情報モラルやセキュリティに関する調査・研究
  - 地域課題の探究と発表（例：地域のよさ発信、保育園での交流体験）
  - 初心者向けプログラミング学習やユニバーサルデザインを考慮したWebサイト制作
  - データ活用による課題解決（ビッグデータ分析、相関関係の考察など）
  - AIやIoT技術を使った問題解決や新商品開発のプレゼンテーション
  - オープンデータを利用した分析やシミュレーション
- ICT技術の活用方法
  - Excelなど表計算ソフトでのデータ収集・整理・分析
  - PowerPointなどでスライド作成し、分析結果や考察を発表
  - Webページ作成やHTMLコーディング、Pythonなどのプログラミング課題の実施
  - アプリ開発（例：文化祭での整理券発行アプリ、じゃんけんアプリ作成）
  - 大学や地域企業と連携したデジタルアーカイブやAI活用プロジェクト
- 学習の特徴と活動形態
  - 生徒が自ら課題を設定し、ICTを活用しながら問題解決の手順を学ぶ
  - 課題研究・探究は「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」や学校設定科目「情報探究」で展開
  - SSH指定校の特性を活かし、データサイエンスや課題解決型探究活動を推進
  - プログラミングコンテストや販売甲子園などの校外活動へも積極的に参加
  - 探究活動で得た知見をプレゼン大会や卒業研究などで発表
- 情報モラル教育の充実
  - インターネットの光と闇、情報セキュリティに関する調査研究
  - 調査した課題の解決策を検討し、考察や提案をプレゼンで発表
  - 教員間で「思考力を深める問い」のデータベース化を共有し、授業改善に活用

(4) 以下ア～クのうち、教員が「各教科における探究活動」に取り組む上で課題となっているものを選んでください。（複数回答可）



**(5) 上記の課題について、具体的な課題とその解決に向けた取組があれば記述してください。記述の最初に、選んだ項目を表すカタカナをお書きください。(自由記述)**

- 教員の課題・研修関連
  - ・ 同じ教科の教員数が少なく、特に初任者が多いため研修機会の確保が必要 (エ)
  - ・ 組織的で継続的な教員研修が喫緊の課題 (エ)
  - ・ 探究指導方法が未確立であり、研修やノウハウの共有が不足している (エ)
  - ・ 外部の専門家を招いた職員研修を数回実施している例もある (エ)
  - ・ 教員間で授業内容や探究の事例共有の場づくりや互見授業の実施など、共有化している (エ)
- 授業時間・カリキュラムの課題
  - ・ 授業時間が不足し、探究活動に十分な時間を割けない (ア)
  - ・ 教科書の内容が多く、内容の精選や削減が求められている (ア)
  - ・ 探究活動は日々の授業に組み込む工夫や、ICT活用による効率化の試みがある (ア)
  - ・ 長期休暇や放課後など時間外に探究活動を実施しているケースも多い (ア)
  - ・ 進学や受験対応が優先されるため、探究活動が後回しになっている (ア、ウ)
- 探究活動の実施状況・工夫
  - ・ 教科横断的な探究活動を推進するため、部署を設置したり、リーダーを決めたりしている (ア)
  - ・ 地域連携 (同窓会、企業、行政、NPO など) を通じた探究活動の強化 (キ)
  - ・ 探究発表資料のデータベース化を検討し、質の向上を目指している (ア)
  - ・ ICT活用でレポート作成や資料検索の効率化 (ア、ウ)
  - ・ 生徒の学習能力の差や意欲の差が課題であり、個別対応が求められている (エ、ク)
- 評価・授業改善
  - ・ 観点別評価の適切な実施に向けた力量形成研修の実施 (イ)
  - ・ 探究の過程を評価するのが難しいという課題 (イ)
  - ・ 教員間の共通理解や連携が進みつつあるが、まだ十分ではない (エ、オ)
- 教育環境・体制
  - ・ 教員数が少なく業務負担が大きい (ア)
  - ・ ICT環境の整備が遅れている (カ)
  - ・ 教員以外のコーディネーターや外部支援者の配置を望む声 (エ)
  - ・ 管理職のリーダーシップが重要 (エ)

**(6) 今後、どのような支援があれば「各教科における探究活動」が促進されると思いますか？(自由記述)**

**【探究活動推進における主な課題と必要な支援】**

**ア 人的・時間的支援**

- 教員の負担軽減と時間の確保
  - ・ 教員数の増加 (加配) による授業持ち時間の削減
  - ・ 不要業務の見直し・削減 (部活動・事務・委員会業務など)
  - ・ 教科書内容の精選・標準単位数の見直しによる授業時間の柔軟化
  - ・ カリキュラムオーバーロードの解消
- 探究専任コーディネーターの配置
  - ・ 学校内外の連携・調整を担うコーディネーターの常駐
  - ・ 総探専任者、各教科の探究支援員 (外部人材) の配置
  - ・ 探究の企画立案、教材選定、企業・地域との連携のサポート
- 探究活動支援の体制整備
  - ・ ICT支援員・事務補助員の配置
  - ・ 指導補助や評価補助にあたる TA (ティーチング・アシスタント) 的な人材配置
  - ・ 学習支援員、大学生、外部講師等の活用
- イ 教員のスキルアップ・意識改革**
- 探究指導に関する研修の充実
  - ・ 探究のプロセスや評価方法を学ぶ必修研修
  - ・ 各教科における探究的な学びの進め方研修
  - ・ 探究の必要性や効果に関する啓発
  - ・ 探究活動を体験する「教員自身の探究活動」

- 実践事例の共有・活用
  - ・ 教科別・単元別の具体的な探究活動事例集の整備・提供
  - ・ 成功例・失敗例を含めた授業動画、発表資料のデータベース化
  - ・ 実践授業の公開・研究会（県単位・地区単位）
  - ・ 年間指導計画との関連を示した「すぐ使える」モデルの提示
- 意識改革の促進
  - ・ 「なぜ探究なのか」という根本的な問いの共有
  - ・ 教員の内発的動機を高めるような働きかけ（研修・交流など）
  - ・ 探究活動の価値や楽しさを理解できる仕掛けづくり
- ウ 教材・評価・制度的支援
- 教材・ツールの整備
  - ・ 探究に適した教科別教材、テーマ集、問いづくり例、ワークシート等の提供
  - ・ 教科書内容との接続が明確な探究単元のモデル化
  - ・ カセット式探究カリキュラムの開発
  - ・ ジャパンナレッジ等の探究用デジタルリソースへのアクセス
- 評価の仕組み・モデルの提示
  - ・ 探究活動のルーブリック、プロセス評価・成果評価のモデル共有
  - ・ 教科横断的评价と総探でのフォローアップの仕組み構築
  - ・ 評価に使えるツールやチェックリストの整備
- 制度面での後押し
  - ・ 大学入試での総合型選抜・探究成果の扱い強化
  - ・ 教科書検定・大学出題範囲の見直し（特に進学校での声）
- エ 環境整備・金銭的支援
- ICT 環境・施設整備
  - ・ 高速 Wi-Fi、1 人 1 台端末の安定活用
  - ・ ICT を活用した情報収集・発表・共有の支援
- 予算・資金の充実
  - ・ 外部講師招聘、教材購入、交通費、宿泊費、発表参加費などへの助成
  - ・ 探究活動専用の予算枠や補助制度の設置
  - ・ 公用車や生徒輸送手段の整備（中山間地等の地域事情への配慮）
- オ 連携と広がり
- 外部機関との連携促進
  - ・ 地域企業、大学、NPO、行政等との連携のコーディネート支援
  - ・ 高大連携・産官学連携の仕組み整備
  - ・ 学校魅力化コーディネーターとの連携継続
- 学校間・地域間の情報共有
  - ・ 他校・他地域の実践事例の見える化（Web データベース等）
  - ・ 授業動画、指導案、発表資料等の共有
  - ・ 全国規模での探究発表の機会の整備と支援

## 《分析・考察》

探究活動の現状と課題に関する調査の結果から、多くの学校が授業進度や時間の確保に課題を感じていることが分かる。また、教員間のスキルや意識の差を埋めるため、職員研修や他校の事例研究を進めており、教員間の情報共有や連携を強化しようとしている。

探究活動における全体方針については 39.7%の学校に明文化された方針があり、明文化はしないまでも共通理解が図られている学校も 23.4%あった。各校から報告があった特色ある探究活動としては、地域資源や社会課題に密接に関連した取組が目立つ。地域の企業や団体と連携し、実践的な体験学習を通じて、生徒が地域社会の理解を深めるだけでなく、キャリア形成にもつながる活動が行われている。またグローバルな視点を取り入れた探究テーマを設定することで、生徒の視野を広げる試みも見られる。

翻って教科ごとの取組に目を移すと、「生徒が自ら問いを立て、情報を集め、考察・表現する」ような探究活動が「十分に実施されている」と回答した学校は 13%、未実施が 28.9%の数値から、探究活動は一部の教員により実施され、探究活動に対する教員個々の温度差が感じられ

る。教科別で見ると外国語と家庭科で数値が高く、外国語は英語によるディスカッションやプレゼンテーション、家庭科はホームプロジェクトなどの具体的な取組が挙げられた。反面、情報、数学で実施率が低いことについて、教科の内容と問題発見・情報収集・表現活動との親和性が低いことが伺える。

教員が「各教科における探究活動に取り組む上での課題」として意見が多かったのは、多い順に「時間的な余裕の不足」、「指導法の未習熟」、「学習評価の難しさ」であり、この三つで全体の回答の65%を占めた。余裕不足の理由として、多くの学校が教科書の進度に追われていることを挙げ、授業内容の精選やICT活用で時間を捻出することで対応をしている姿が伺えた。他に「指導法の未習熟」「学校評価の難しさ」の回答から、各校とも教員の研修とスキル向上を課題とし、対策として指導法の確立や教員間の共通理解の促進が求められており、組織的で継続的な研修や授業見学を通じて、教員の力量を高める取組が重視されている。このことと併せ、教職員の業務負担軽減や人的支援を強化し、教職員が探究活動に専念できる環境を学校長がいかに整えていくかが探究活動推進の鍵となっている。

#### 問4 「アントレプレナーシップ（起業家精神）を育む学び」の取組と課題について

(1) 現在、貴校では「アントレプレナーシップ（起業家精神）を育む学び」に関連する取組を行っていますか？

質問項目	回答数	回答数/全回答数
ア 教科等の中で学校、学年、コース等を対象に実施している	35	16.4%
イ 課外活動も含めて、一部の生徒を対象に実施している	36	16.8%
ウ 実施していないが、今後数年以内に実施したい	52	24.3%
エ 実施しておらず、当面は実施する予定もない	91	42.5%
合計	214	100.0%

(2) 上のア又はイと答えた場合、取り組んでいる内容を以下から選んでください。(複数選択可)

質問項目	回答数	回答数/ 71校	回答数/全回答数
ア 総合的な探究の時間での活動	46	64.8%	27.9%
イ 地域企業や大学との連携	45	63.4%	27.3%
ウ 外部講師による授業・講演	41	57.7%	24.8%
エ ビジネスプランコンテスト等への参加	21	29.6%	12.7%
オ 複数教科等における起業的要素の導入	6	8.5%	3.6%
カ その他	6	8.5%	3.6%
合計	165		100.0%

(3) 特徴的な取組内容があれば、上記の中から3つ以内で選び具体的に記述してください。記述の最初に、選んだ項目を表すカタカナをお書きください。

ア 総合的な探究の時間での活動

- ・ 外部業者等（「教育と探求社」など）の活用。（同趣旨3件）
- ・ 1学年の「人間と社会」（総合的な探究の時間で代替）において、地域の桜守の活動に参加した生徒達がその経費を自分達の力で捻出することで桜守の活動を支援できないかと考え始め、「総合的な探究の時間」を活用して、リアビズコンテストに応募し、桜をイメージした入浴剤を開発して販売する企画をたて、見事に全国91校の中からグランプリを獲得した。
- ・ 地域と連携したキャリア教育を通して、創造力と想像力の育成を図る中で、校内組織を立ち上げ、海洋プラスチックゴミ削減を啓発する企画商品の開発。
- ・ 知財力開発校支援事業に応募し、特許や商標権といった知財学習の取り組みを進めている。
- ・ 1学年の総合的な探究の時間で、近隣地域の課題解決型探究活動を実施し、「街文化祭」を企画運営している。

イ 地域企業や大学との連携

※地域企業との連携（15件）

- ・ 企業体験として地域企業と連携した商品開発、販売を行った。仕入れ数と販売数の問題や価格設定、販売の仕方や宣伝方法、またそれらの場所など、すべてが勉強となった。
- ・ 地元企業、地元商工会と連携して、社会課題、ビジネス課題の解決策等を研究している。
- ・ 地元企業と連携した商品開発。地域活性化のための商品開発等。地域特産品をいかした商品開発を地元企業やコンビニと実施している。地域企業や県外大学と連携し地域特産物を利用した商品開発。企業のイメージキャラクタを考案及び活用の方法を考えた。
- ・ 多くの探究コースを業者に依頼しており、地域企業との連携・フィールドワークを促進中。

※大学との連携（6件）

- ・ 高大協働研究（本校と首都圏大学の相互フィールドワーク）
- ・ OBをはじめ地域の起業家に講演等をいただいている。また、大学と連携し講座を開設している。
- ・ 慶應義塾大学 先端生命科学研究所と連携し、毎年十数名の生徒が研究助手として採用され、新しい価値の創造活動に取り組んでいる。
- ・ 高崎経済大学の支援による「販売甲子園」という取組があり、参加を希望する高校がその商品開発や仕入れ販売等で競いあうことを大学生がアドバイスしてくれる。
- ・ 学校設定科目において、放課後や長期休業日など通常の授業時間とは異なる時間で開講され、大学の教員による講義や企業の研究者による講義の受講などを実施し、単位認定している。

ウ 外部講師による授業・講演

- ・ 地元の企業経営者等による計画的かつ継続的な授業サポートを受けている。
- ・ 同窓生の起業家による講演会を実施。（同趣旨2件）
- ・ 福祉事業所の理事長による経営に特化した講話。
- ・ 文部科学省のスタートアップ推進大使派遣事業を活用し、ボストン研修旅行に参加する生徒にアントレプレナーシップ教育を実施。自分達で見つけた社会課題を解決するための起業をし、そのプレゼンを行う研修を実施した。そのプレゼンをボストンのC I C（ケンブリッジ・イノベーション・センター）の研修プログラムにおいて発表し、現地スタートアップ起業の経営者から高い評価を得た。
- ・ 地元商工会議所青年部から講師を招き、働くことの意味や、やりがいについて考える機会。
- ・ ラッピングコーディネーターや商品開発の講師を招聘し、プロの視点から様々なアドバイスをいただき販売に至った。

エ ビジネスプランコンテスト等への参加

- ・ ぐんまイノベーションアワードという新たなビジネスプランを競う取り組みに参加している。
- ・ 取り組んだ成果報告としてコンテストに応募し発表している。

オ 複数教科等における起業的要素の導入

- ・ 政治経済と家庭科で横断的な取り組みを実施している。（予定）
- ・ 家庭科との教科連携を図りながら、商業の学びを実践的に活用する取り組みを行っている。家庭科で被服の内容を取り入れ、エコバッグ作成を行った。また、商業科目で学んだマーケティングや商品企画、会計処理の知識を応用し、ターゲット設定や価格設定、売上管理などの実務的な活動をしている。

カ その他

- ・ 産学官の連携による地域の課題解決を目指したビジネスプランの作成。
- ・ 地域観光施設と連携・協働し観光アピールの実践。

**(4) 教育課程の中で、「アントレプレナーシップ（起業家精神）を育む学び」の位置づけは明確ですか？**

質問項目	回答数	回答数/全回答数
ア 明確にしている	13	6.1%
イ 明確にしていない	201	93.9%
合計	214	100.0%

**(5) 「アントレプレナーシップ（起業家精神）を育む学び」の重要性についてどう考えていますか？**

質問項目	回答数	回答数/全回答数
ア 非常に重要	24	11.2%
イ 重要	130	60.7%
ウ あまり重要でない	60	28.0%
エ 不要	0	0%
合計	214	100.0%

**(6) この教育を通して育てたい力・育てることができると思う力は何ですか（複数選択可）**

質問項目	回答数	回答数/全校数	回答数/全回答数
ア 課題解決力	160	74.8%	22.0%
イ 主体性・創造性	182	85.0%	25.1%
ウ リーダーシップ	97	45.3%	13.4%
エ 協働力	118	55.1%	16.3%
オ 経済的リテラシー	60	28.0%	8.3%
カ 地域・企業等との連携力	93	43.5%	12.8%
キ 不明	8	3.7%	1.1%
ク その他	8	3.7%	1.1%
合計	726		100.0%

**(7) ク、その他について具体的に記載してください。（自由記述）**

- ・ 自らの意図、意志、行動の理由等について、相手に明確に伝える力。
- ・ 他者に対する思いやりの心や嫌悪感を持ちながらも他者を認めること。
- ・ 夢中になれることを仕事にする力。社会人として生きる力。VUCAの時代に適応できる力。
- ・ 何か特別な力をつけるというよりも、「起業」という選択肢があること自体を知り、「起業」の方法なども知るべきだと考える。現在の社会を生きていくのに、「就職」しか見えていないことは大きな損失であると思う。
- ・ 社会の成り立ちとその変遷、情報処理能力、教科間の「知」のリンク、課題発見能力など。規範意識、知的財産権、会社法、会計リテラシー。挑戦力、失敗から学ぶ力。
- ・ 「チームマネジメント力」や「人間力」を育てている。実社会で求められる力を実感とともに身につけることができる。教科を越えた学びと人との関りが、起業教育をより深めている。

**(8) この教育についての教職員の理解・意識についてどのように感じていますか？**

質問項目	回答数	回答数/全回答数
ア 全体的に関心が高く、理解もしている	4	1.9%
イ 一部に関心が高く、理解がある	51	23.8%
ウ 関心はあるが理解が浅い	51	23.8%
エ 関心があまりない	99	46.3%
オ 不明	9	4.2%
合計	214	100.0%

**(9) 「アントレプレナーシップ（起業家精神）を育む学び」の推進にあたっての課題は何ですか？（複数選択可）**

質問項目	回答数	回答数/全校数	回答数/全回答数
ア 教員の専門性や指導力不足	163	76.2%	20.4%
イ カリキュラム・教材の不足	113	52.8%	14.2%
ウ 時間の確保が困難	139	65.0%	17.4%
エ 外部連携の難しさ	57	26.6%	7.1%

オ 生徒の関心の低さ	58	27.1%	7.3%
カ 予算や人材の確保	149	69.6%	18.7%
キ その他	119	55.6%	14.9%
合計	798		100.0%

**(10) キ、その他について具体的に記載してください。(自由記述)**

- ・ 教員自身が「アントレプレナーシップを育む学び」に強い必要性を感じていないこと。特に普通科における教員の意識の低さ。教員（公務員）は起業家とは逆の志向が強い集団であるため関心が低いこと。
- ・ 教員の専門性や指導力向上を図るための時間を確保すること。
- ・ 今までこれを強く推進することについて県からの指示を聞いたことがない。具体がわからないと学校としてやりましようという機運にならない。
- ・ 「起業家精神」と訳すことで起きている誤解。
- ・ コーディネーター依存。

**(11) 今後、「アントレプレナーシップ（起業家精神）を育む学び」の推進にあたって、必要だと感じる支援は何ですか？（複数選択可）**

質問項目	回答数	回答数/全校数	回答数/全回答数
ア 教員研修の充実	145	67.8%	25.8%
イ 外部講師・連携機関の紹介	142	66.4%	25.3%
ウ 教材・指導案の提供	98	45.8%	17.5%
エ 地域連携のコーディネーター	117	54.7%	20.9%
オ 管理職研修の充実	49	22.9%	8.7%
カ その他	10	4.7%	1.8%
合計	561		100.0%

**(12) カ その他について具体的に記載してください。(自由記述)**

- ・ 生徒を外部（企業）で研修させる制度。
- ・ 校内体制の整備（教員増）。
- ・ さまざまな経歴（とくに起業経験）を有する人材の教員等への登用。
- ・ 商工会等を含め、完全外部委託。金銭面の支援。移動手段（貸し切りバス）の支援。
- ・ 予算的措置。

**(13) 特に必要だと感じる支援について上記ア～カから一つ選び、具体的に記載してください。記述の最初に、選んだ項目を表すカタカナをお書きください。(自由記述)**

ア 教員研修の充実

- ・ 職員も何をやればアントレプレナーシップ（起業家精神）を育む学びにつながるのかが、イメージできていないので、まずは研修かと思う。
- ・ ○○教育というものが増えるばかりで、どこに独自性があるのか、それぞれがどのように関連し、総合的に何をを目指しているのか、どのように組み合わせていくことが望ましいのか、整理して考えていくための研修が必要。また、そうした研修のために、それぞれの位置づけと関係性を示した資料が必要。
- ・ 従来の○○教育と重なる部分も多く、まったく新しいことをゼロから始めるわけではないことを理解するだけでも、取り組みのハードルは低くなると思う。
- ・ 予想される社会システムの変化について具体的なデータを踏まえ、生徒が将来に向けて高校時代に身に付けなくてはならない資質・能力についての知見を獲得できるような研修の実施。
- ・ 現在の教職員自身がアントレプレナーシップに係る教育を受けていない、アントレプレナーシップ育成を普通科教育への落とし込みも経験がないため。
- ・ 高等学校におけるアントレプレナーシップ教育の定義と目的を明確にする、具体的に学校生活のどの場面で行うものかを明確にする。

イ 外部講師・関連機関の紹介

- ・ 教員研修を待っているのは社会のスピードに追いつくのが難しい。そのため、最も効果的な方

法の一つが外部の専門家を講師として招き、直接生徒に授業をしてもらうことだと考える。

- ・ 講師を呼ぶ費用が学校にとって大きな負担となる。どのような講師がいるのかも知りたい。
- ・ まずは一部の生徒だけでも参加できる外部プログラムなどについての情報提供。
- ・ 人員が不足しているため教員が企画立案する時間の削減などが出来るシステムがあるとよい。

#### ウ 教材・指導案の提供

- ・ 従来の教科指導とは異なり、起業家教育では発想力、課題解決力、マネジメント力など、実社会と直結した力が求められるため、指導に不安を抱える教員も少なくない。こうした課題に対応するためには、教員自身の指導力を高めることが不可欠である。その一つの手段として、具体的な事例やワークシート、評価基準を含む教材の整備・提供が効果的であると考え。現場のニーズに即した教材開発と教員サポート体制の強化が重要となる。
- ・ 他校の教材・指導案及び実践事例を多く知ること、自校の実施方法を工夫できるのではないかと思う。
- ・ 教材等がパッケージ化されていると校内でも活用しやすい。

#### エ 地域連携のコーディネーター

- ・ 実施について地域コーディネーターの存在が大きい。地域企業等と連携には必要である。
- ・ アントレプレナーシップの育成に真剣に取り組むとき、地域との連携は欠かせないが、そのコーディネーターの存在は活動の成否や質を決めるほど重要であるから。
- ・ 学校に自治体から派遣の地域連携コーディネーターを週1回で良いので配置してもらえると、地域や企業との連携がかなりスムーズに進むと考える。
- ・ 学校の事情を把握した優れたコーディネーターがいると学校と地域や企業をつなぐ役割を果たしてくれるが、行き過ぎると難しい面もある。
- ・ 地域連携コーディネーター待遇改善

#### オ 管理職研修の充実

- ・ 私も含めて、アントレプレナーシップに関する知識が乏しい。また重要性についての認識も薄い。まず、管理職に対する啓発が必要である。
- ・ 本校では地域探究活動が課題発見・解決力やキャリアプランニング能力を身に着けること等を目的として実施しており、この活動そのものがアントレプレナーシップを育む学びにつながっているものと捉えているが、自身の理解が浅く、アントレプレナーシップを育む学びの推進というのは、探究的な学びにさらに何かを足していくものなのか、そしてそれはすべての生徒に対して課していくべきものなのか、今一つわかっていないのが正直なところ。
- ・ この学びの重要性は理解できるものの必要性についてはあまり感じていない。
- ・ 教職員の企業トップに学ぶ研修や、生徒たちの県内起業家のビデオを見る機会はあるが、生徒が起業家となり社会貢献するという視点での教育に結び付けられていない。
- ・ 労働関係法や勤労意識の大切さを校長・教頭に認識させることが大切だと思う。

#### カ その他

- ・ 学校のなかだけで育てるのではなく、生徒を一定期間外部（企業）で研修させ、それを単位として認めるなどの制度を充実させることが大切であると考え。

### 《分析・考察》

第4期教育振興基本計画では、起業家教育（アントレプレナーシップ教育）をあらゆる学校段階で推進していくことが示され、今後5年間の教育政策の目標と基本施策の一つとして、「各学校段階での、児童生徒の発達段階に応じた、各教科等の授業における起業への理解促進や起業体験活動の推進」等が掲げられている。

アントレプレナーシップ（起業家精神）を育む学びについては、72.0%が「非常に重要」「重要」と回答し、現代的教育課題である主体性・創造性や課題解決力、協働力等の育成に期待されている一方、多くの学校（66.8%）が具体的な実施には至っておらず、ほとんどの学校（93.2%）が教育課程の中での位置付けが不明確な状況である。

あらゆる学校段階で推進するとしながらも普通科高校での取組が十分に至っていない理由としては、高等学校におけるアントレプレナーシップ教育の定義と目的の明確化を求める回答が多いことから、同計画において、「全国の大学等における起業家教育（アントレプレナーシップ教育）の受講者数の増加」、「普通科以外の普通教育を主とする学科を設置又は設置を計画している高等学校数の増加」等、大学や普通科以外の高校を施策の指標としていることなども要因として考えられる。また、起業家教育（アントレプレナーシップ教育）を急激な社会環境の変化を受容

し新たな価値を生み出していく精神を備えた人材の創出のための教育と説明していることから、「総合的な探究の時間」との区別や相関等が不明確な点が影響しているのではないかと推測される。

推進に当たっての課題としては、「教員の専門性や指導力不足」が76.2%、必要な支援としては、「教員研修の充実」が67.8%の回答があり、46.3%が「関心がない」とする教職員の意識の低さを解決するには、相当の時間を要することが懸念されるが、コミュニティ・スクールの特性を生かした学校・自治体・地域企業等の連携や地域コーディネーターの活用、また民間等が主催する様々なコンテストの一層の充実等が、起業家教育（アントレプレナーシップ教育）の定着に繋がることを期待される。

#### 問5 「遠隔授業を活用した学び」に関する取組と課題について

(1) 貴校の遠隔授業の実施状況について、以下の①～④にお答えください。

① 「合同授業型」(他校の教室と自校の教室をつないで、生徒同士が交流するなど)の遠隔授業を実施していますか。

質問項目	回答数	回答数/全回答数
ア 学習指導計画に則り年間複数回実施	9	4.2%
イ 必要に応じてスポット的に実施	28	13.1%
ウ まだ実施していないが、今後の実施に向けて検討中	46	21.5%
エ 実施しておらず、実施に向けた検討もしていない。	131	61.2%
合計	214	100.0%

② 「教師支援型」(オンラインで専門家につないで特別授業を実施するなど)の遠隔授業を実施していますか。

質問項目	回答数	回答数/全回答数
ア 学習指導計画に則り年間複数回実施	9	4.2%
イ 必要に応じてスポット的に実施	62	29.0%
ウ まだ実施していないが、今後の実施に向けて検討中	37	17.3%
エ 実施しておらず、実施に向けた検討もしていない。	106	49.5%
合計	214	100.0%

③ 「教科・科目充実型」により、他校の教師から自校の生徒対象に遠隔授業を実施していますか。

質問項目	回答数	回答数/全回答数
ア 学習指導計画に則り年間複数回実施	12	5.6%
イ 必要に応じてスポット的に実施	6	2.8%
ウ まだ実施していないが、今後の実施に向けて検討中	23	10.8%
エ 実施しておらず、実施に向けた検討もしていない。	173	80.8%
合計	214	100.0%

④ 「教科・科目充実型」により、不登校又は病気療養中等の生徒に対して遠隔授業を実施していますか。

質問項目	回答数	回答数/全回答数
ア 常時実施	10	4.7%
イ 必要に応じて実施	104	48.6%
ウ まだ実施していないが、今後の実施に向けて検討中	65	30.4%
エ 実施しておらず、実施に向けた検討もしていない。	35	16.3%
合計	214	100.0%

(2) 実施している場合は、使用している主なツール・プラットフォームは何ですか？(複数選択可) ※実施していない場合は、(2)～(11)には回答せず(12)にお進みください。

質問項目	回答数	回答数/全校数	回答数/全回答数
ア Google Classroom	65	49.2%	30.7%
イ Zoom	41	31.1%	19.3%
ウ Microsoft Teams	48	36.4%	22.6%
エ Google Meet	48	36.4%	22.6%
オ 学習管理システム (LMS)	2	1.5%	0.9%
カ その他	8	6.1%	3.8%
合計	212		100.0%

**(3) カ、その他のツール名を具体的に記載してください。**

・Classi ・KUB I (2) ・ロイロノート(3) ・Webex Meet(2) ・orihime・メタ文字

**(4) 「遠隔授業を活用した学び」を実施している教科等（複数選択可）**

質問項目	回答数	回答数/全校数	回答数/全回答数
ア 国語	82	68.9%	12.4%
イ 地歴・公民	87	73.1%	13.1%
ウ 数学	90	75.6%	13.6%
エ 理科	87	73.1%	13.1%
オ 保健体育	47	39.5%	7.1%
カ 芸術	43	36.1%	6.5%
キ 外国語	89	74.8%	13.4%
ク 家庭	51	42.9%	7.7%
ケ 情報	61	51.3%	9.2%
コ その他	25	21.0%	3.8%
合計	662		100.0%

**(5) コ、その他の教科等を具体的に記載してください。**

- ・ 商業(2) ・ 理数科(2) ・ 総合的な探究の時間(13) ・ 福祉(2) ・ 水産
- ・ 地理探究 ・ 特別活動、LHR
- ・ 学校設定科目「観光地理」において、県外の高校と交流授業を実施
- ・ 生活支援に関すること。たばこの害・SNSの使い方等の講演
- ・ 探究学習、課外学習、国内他校・海外の学校との交流授業

**(6) 特徴的な取組内容があれば上記ア～コの中から3つ以内で選び具体的に記述してください。記述の最初に、選んだ項目を表すカタカナをお書きください。**

- ア) ・ 放課後の課外授業において、オンデマンド型、ライブ配信型、双方向型など実施している (イウエキケも同様)
- ・ 身体障害のある生徒が家庭で寝そべて授業を受けることができるよう教室と家庭をオンラインで結び展開している (イウエキも同様)
- エ) ・ 理科における、観察実験
- ・ 物理では、担当教諭が授業内容解説をアーカイブ化し、その視聴での支援を行っている
- ・ 県教育委員会からの指定を受け、遠隔授業担当教員からの授業を受講している。
- キ) ・ 海外姉妹校との交流
- ケ) ・ データ利活用や生成AIに関する学びにおいて、専門家による支援をいただいている。
- コ) ・ ユニクロと連携した「服のチカラプロジェクト」
- ・ 福祉事業所職員との意見交換
- ・ 定時制で他校の先生に授業を担当していただいている
- ・ 授業のみならず、学校行事もオンラインで配信することで、入院生徒の行事参加への充実感につながっている

- ・ 東京都は年間一日はオンライン学習デーを設定している
- ・ 県内中等教育学校6校を結び、学年ごとの遠隔授業
- ・ 県内の遠隔地で小規模校に、「社会福祉基礎」2単位と「書道Ⅰ」2単位で、担当者が、毎時間授業配信をしている
- ・ すべての教科において、k u b iを用いて、病室等から自身の意見を発表したり、グループ討議に参加したりしている
- ・ 海外の学校とのリアルタイムでのオンライン交流（本年度はモンゴルの学校と実施）。

(7) 「遠隔授業を活用した学び」の導入により、生徒の学習意欲にどのような変化がありましたか？

質問項目	回答数	回答数/全回答数
ア 向上した	45	33.9%
イ 変化なし	41	30.8%
ウ 低下した	47	35.3%
エ 不明	0	0.0%
合計	133	100.0%

(8) 教員のICT活用能力について、「遠隔授業を活用した学び」の実施を通してどのような変化がありましたか？（複数選択可）

質問項目	回答数	回答数/全校数	回答数/全回答数
ア 向上した	56	26.2%	40.9%
イ 変化なし	48	22.4%	35.0%
ウ 課題が顕在化した	13	6.1%	9.5%
エ 不明	20	9.3%	14.6%
合計	137		100.0%

(9) 「遠隔授業を活用した学び」において、保護者や地域社会からの反応・評価はどのようなものですか？

質問項目	回答数	回答数/全回答数
ア 概ね好意的	81	60.5%
イ 一部に不安・不満あり	9	6.7%
ウ 否定的	0	0.0%
エ 不明	44	32.8%
合計	134	100.0%

(10) 「遠隔授業を活用した学び」で特に課題と感じる点をお答えください。（複数選択可）

質問項目	回答数	回答数/全校数	回答数/全回答数
ア 通信環境・端末の整備	86	61.0%	23.9%
イ 教員の指導力・ICTスキル	58	41.1%	16.1%
ウ 生徒の学習意欲	43	30.5%	11.9%
エ 学習評価	62	44.0%	17.2%
オ 実技科目での実施	76	53.9%	21.1%
カ セキュリティ・個人情報保護	23	16.3%	6.4%
キ その他	12	8.5%	3.3%
合計	360		100.0%

(11) 特に課題だと感じるものがあれば上記ア～キから一つ選び、具体的に記載してください。記述の最初に、選んだ項目を表すカタカナをお書きください。

- ア)
  - ・ 通信環境の整備、回線速度の増強(6)
  - ・ すべての教室で実施可能な状況にするための機材の整備(2)
  - ・ 機材が揃わず、配信しているだけで双方向のやりとりは難しい
  - ・ 生徒のPCが個々に異なるため、安定した通信環境の確保が難しい
  - ・ 教室内での授業の中継となるため、受講者の意向(見たい板書・投影スライドの拡大表示、共同学習への参画)を反映したものにならない。(自己の意志で視点を移したり、無理なく双方向で参加できる機材がない)(2)
  - ・ 生徒端末について貸与タブレットの使用年数がすすんでいる
  - ・ 家庭の通信環境が課題である(2)
  - ・ 機器の善し悪しが授業に影響する現実が如何ともし難い
- イ)
  - ・ 教員のやる気、指導力、ICTスキルの向上(6)
  - ・ 一部の教員に負担が偏ること
  - ・ 課題が顕在化している過程である。理科の実験ひとつとっても学校によって設備や備品に差があるにもかかわらず配信者がそれを十分に把握できていないため、混乱が生じる。新たな形の授業を構成するためには、適した人材の確保とチェックポイント等の整理が重要
  - ・ 実技科目では、動画作成、書画カメラの活用、ロイロノートの活用も組み合わせて行っていることから、授業準備やスキルも必要である
  - ・ 毎時間その操作を余儀なくされる手間等
  - ・ 理科実験は対面に負けてしまう
- ウ)
  - ・ 生徒の学習意欲が低い場合は、双方向型の授業が成立しない(3)
  - ・ 不登校の生徒、保護者が安易に要望し、学校への復帰は望まない現状がある
  - ・ 不登校生徒に関して、生徒によっては主体的な学習への取り組み方が身に付いていない
  - ・ 学校として接続して学ぶ環境を整備しても、生徒が参加しない
  - ・ 遠隔授業には遠隔授業に適した授業デザインがある。通常の対面授業をそのまま遠隔にするのでは、生徒の集中も続かず、効果的な授業になるとは思えない
  - ・ 要望があれば遠隔授業を行うが、普段の授業を配信する以上の対応はできないため、質を保証するものではなく、見やすくはないので、学習意欲を持たせることが難しい(2)
- エ)
  - ・ どのように観点別評価をつけるか(3)
  - ・ 遠隔授業は対面ではないことから、その主体的な学びや協働的な学びの評価にはかなりの工夫を要する
  - ・ 校長が単位認定を決断できるような判断材料が必要
  - ・ 教室で授業を受けている生徒の場合、グループ活動などに参加することが出来て、活発に意見を述べたり交換したりできるが、やはり取り残されてしまう。また、課題提出等により学習を補っているとはいえ、他の生徒達と同一基準で評価を算定することが困難である(2)
  - ・ 不登校生徒対象の遠隔授業は課題が多く、実施基準、評価基準等の校内体制の整備が課題として大きい。不登校支援の遠隔授業は全授業が対象であり、教員の負担が多い。安易な認定、周囲の生徒の意欲喪失等懸念があげられている
  - ・ 芸術なら作品を提出することで評価ができるが、実技の場合は、評価の規準を別に設けないと評価が難しいと思われる(2)
- オ)
  - ・ 実技科目の遠隔授業について、備品等の機材・道具を必要とするものが多いと思われる。また、カメラ映像だけでは活動の様子を正確に把握することが困難である
  - ・ 体育、芸術では見学になってしまう
  - ・ 体育、芸術などの実技科目での履修と修得をどのように判断するのが大きな課題
  - ・ 実技科目において、授業に出席している生徒と遠隔授業を受けている生徒との間で生じる評価基準の妥当性については検討が必要
- カ)
  - ・ いじめ等が原因で教室に入れず、遠隔授業を行う場合は、いじめが行われている教室での活用は非常に難しい
- キ)
  - ・ 不登校生徒への適用について、具体的な対応について示されていない。学校に丸投げされている。通常とおり、登校している生徒とのバランスをどうとするのか、具体的に示してほしい
  - ・ 教員の負担増(事前事後の準備等)(3)
  - ・ 教員や他の生徒との交流が限定され、質問や議論の機会が減少
  - ・ 体育は実施するのは難しいが、今後何らかの形で学習できるような方法を画策したい
  - ・ 小規模校であるため職員数が極めて少ないうえに、遠隔授業を実施するとなれば一定数の

生徒に対応しなければならない状況が想定され、人間的な余裕はなく対応が難しい

- ・ 履修状況を把握するのは難しい
- ・ 多くの教科・科目で実施したいが、時間割作成上、融通が利かず、限定されてしまう

(12) 今後、「遠隔授業を活用した学び」をどのように位置づけていきたいと考えていますか？

質問項目	回答数	回答数/全回答数
ア 教育の一手段として継続活用	46	21.5%
イ 必要に応じて限定的に活用	147	68.7%
ウ 今後は予定なし	21	9.8%
合計	214	100.0%

(13) 「今後、どのような支援があれば「遠隔授業を活用した学び」が促進されると思いますか？  
(自由記述)

ア 人的支援の必要性

- ・ 教員の負担軽減のため、ICT 支援員やデジタルサポーター、コーディネーターの配置が必要。
- ・ 遠隔授業専任教員や専門スタッフの配置が求められる。
- ・ 教員不足の地域では、県単位や国単位での支援体制が必要である。

イ ICT 等の通信環境整備

- ・ Wi-Fi 環境の全校整備（体育館、特別教室、職員室を含む）を強化する。
- ・ 端末やカメラ、マイク等の機材を常設化する。
- ・ 通信速度、安全性の確保、ネットワーク容量の拡充を行う。

エ 制度および運営面の課題

- ・ 単位認定や評価方法を明確化する。
- ・ ガイドラインの整備を行う。（通信制との違いや柔軟なカリキュラム等）
- ・ 遠隔授業の目的を明確にする。（補習、専門講座、不登校支援など）

オ 実践支援と普及促進

- ・ 先進校等による好事例を共有する。
- ・ 研修を充実させる。
- ・ 企業や大学等の外部機関と連携する。
- ・ 遠隔授業のプラットフォームを構築させる。

カ 対象生徒への配慮

- ・ 不登校生徒や病気療養中生徒への支援を強化させる。
- ・ 家庭との協力体制が必要である。
- ・ 個別最適な学び等学習習慣形成に向け、対象生徒に対し支援を行う。そのためのコーチングやタイムマネジメントの知識や理解が必要である。

《分析・考察》

遠隔授業について、「合同授業型」、「教科・科目充実型」により、他校の教室や他校の教師とつなぐ授業を実施している学校は、17.3%、8.4%と割合が低く、「教師支援型」の授業についても、33.2%と高くはない。一方、不登校又は病気療養中の生徒に対する「教科・科目充実型の遠隔授業」の実施の割合は53.3%と高まり、使用されているプラットフォームは、google classroom が比較的多いが、特筆するものはない。教科では、ほぼすべての教科が平均化して実施しているが、保健体育、芸術など実技を伴う教科については、実施率が低くなっている。「遠隔授業を活用した学び」を導入したことによる生徒の学習意欲の変化には、特筆する特徴は見られないが、保護者や地域社会からの反応・評価は、「概ね良好である」と考えられる。「通信環境・端末の整備」、「実技科目での実施」、「学習評価」、「教員の指導力・ICTスキル」などに課題を感じている学校が多く、ほとんどの学校で活用を考えているものの、必要に応じて限定的に活用するにとどまる学校が多い。遠隔授業をさらに促進するためには、課題を解決するための人的支援、物的支援、制度の整備が必要である。

### Ⅲ おわりに

本委員会では、第4期教育振興基本計画に掲げられた「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」という二つの理念を踏まえ、今年度は「探究活動」「アントレプレナーシップ教育」「遠隔授業」の三つのテーマを柱に、全国214校の普通科高等学校を対象とした調査研究を行った。

調査の結果、教育課程の柔軟性と創造性が求められる中で、現場では多様な工夫と実践が進められていることが明らかとなった。一方で、以下のような共通課題も浮き彫りとなった。

「時間的余裕・人的資源の不足」

「指導例・実践事例の不足」

「活動の価値や目的・方法論の教員間での共有の必要性」である。

以下に、三つの柱ごとに得られた主な示唆を整理する。

#### 探究活動

探究活動は、持続可能な社会の創り手を育成する上で重要な教育の柱であり、学校全体で推進すべきである。今年度は、特に「総合的な探究の時間」以外の教科における探究の取組に注目した。SSHやWWL指定校では教科横断的な探究が体系的に進められている。指定校に限らず、現場では創意工夫に富んだ実践が見られる。一方、時間不足、指導法の未習熟、評価の困難さなどの課題も顕在化している。これらを踏まえ、例えば以下のような支援が求められると考える。

(提言：探究活動推進のために)

- ・都道府県レベルでの「探究推進支援センター(仮)」設立
- ・探究コーディネーターの配置と人材バンクの整備
- ・「探究モデル授業+ワークショップ」型研修の年間計画化
- ・学校規模・地域特性に応じた予算措置と柔軟な支援
- ・デジタル教材・評価ルーブリック例の作成と公開

#### アントレプレナーシップ教育

現代社会に必要な資質・能力(主体性・創造性・課題解決力・協働力)を育む教育として期待されているが、教育課程上の位置づけが不明確な学校が多く、実施率は約3割にとどまっている。先進的な学校では地域企業との連携や外部講師の活用、ビジネスプランコンテストへの参加など多様な取組が見られるが、教員の専門性や教材整備、地域連携体制の不足が課題である。体系的な支援体制の構築が急務である。まずは、普通科高等学校における発達段階に応じたアントレプレナーシップを育む学びとはいかなる意義・目的・目標をもった教育なのか、共通理解の形成が必要ではないだろうか。

#### 遠隔授業

遠隔授業は、多様性を認め、個別最適な学びを保障する手段として注目されている。特に不登校や病気療養中の生徒への支援型では一定の成果が見られるが、合同授業型や教科充実型の実施率は低く、今後の検討課題である。Kubiの導入など先進的な取組も報告されているが、予算面、通信環境、教員のICTスキル、評価方法などの課題に対応するため、制度的整備と人的支援の充実が求められる。

これらの課題と示唆は、現在進められている次期学習指導要領改訂の議論とも密接に関係しており、「深い学び」の継続と深化、「教育課程の柔軟化」、「教科内容の重点化(Less is More)」などの視点から、現場の声を反映した改訂が強く望まれる。

探究活動の定着、アントレプレナーシップの育成、遠隔教育の推進には、「意識と共通理解の広がり」「制度的な柔軟さ」「人的・物的支援」が不可欠である。今後に向けて、教員・管理職向けの体系的研修の充実、地域・外部機関との連携を支えるコーディネーターの配置、教材・評価ツールの整備、校長による校内体制の整備と教職員の意識改革、教科横断的・個別最適な学びを支える制度設計が求められる。

最後に、本報告が学習指導要領の理念を現場で具現化し、すべての生徒が未来社会の創り手として育つための教育の質向上につながる一助となることを願いつつ、本調査にご協力いただいた214校の校長先生方をはじめ、事務局長の佐藤到様、各都道府県委員長の校長先生方など、多くの皆様のご尽力に心より感謝申し上げます。